平成３０年度　第１回　千葉市生涯学習審議会議事録

１　**日時**　平成３０年８月３日（金）
　　午後２時００分から午後３時３０分まで

２　**場所**　千葉ポートサイドタワー１２階　第１会議室

３　**出席者**
（１）委員
　岩切会長、菊池副会長、伊藤（節）委員、伊藤（美）委員、遠藤委員、
　小川委員、金田委員、河野委員、庄司委員、武委員、長澤委員、
　廣﨑委員、渡邉委員
（２）事務局
　潮見生涯学習部長、小林中央図書館長、山田生涯学習振興課長、
　稲葉文化財課長、君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長、
　滝田文化財課特別史跡推進担当課長、山口生涯学習振興課統括管理主事、
　田島生涯学習振興課長補佐
　三橋生涯学習振興課放課後子ども対策管理主事、
　野中生涯学習班主査、柴崎生涯学習班主査、
　藤山放課後子ども対策班主査、大西生涯学習班主任主事

４　**議題**
　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況について

５　**議事概要**
　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況について、事務局が説明し、質疑応答を行った。

６　**会議経過**
　議事に先立ち、事務局から資料の確認、会議の公開、会議録の承認方法、会議の成立、新任委員の紹介、職員紹介を行った。

○（岩切会長）
　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

○（山田課長）
　生涯学習振興課の山田でございます。
　議題「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況について、ご説明させていただきます。
　「第５次千葉市生涯学習推進計画」は、平成２８年度から平成３３年度までの６年間を計画期間として、市民の生涯学習を推進するため策定された計画でございます。
　この度、計画期間の２年目である平成２９年度が終了したため、その進捗状況について、説明させていただくものでございます。

　それでは、資料１「『第５次千葉市生涯学習推進計画』の進捗状況」に沿って説明させていただきます。

　１ページをお願いいたします。
　評価の基準は、表に記載のとおりです。

　２ページをお願いいたします。
　成果指標とアクションプランの評価内容について説明させていただきます。
　なお、アクションプランについては、進捗状況が「遅れ」、「休止」となっている項目を中心に説明させていただきます。

　大項目「１　学習活動のきっかけの提供」の「１－１　生涯学習の普及啓発」でございます。
　まず、「成果指標１　生涯学習に関心のある市民の割合」については、平成２９年度末の現状値は７５．９％で、平成２７年度末の現状値を下回っているため、達成状況は「×」となっております。今後は、各種事業の実施や、生涯学習に関する情報提供などにより、生涯学習に関心のある市民の割合が増えるよう努めます。
　次に、「成果指標２　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」については、平成２７年度末の現状値を下回っているため、達成状況は「×」となっております。平成２８年度より調査方法と設問内容を変更したため、平成２７年度末の現状値から大きく数値が低くなっております。

　６ページをお願いいたします。
　「１－２　学習環境の整備」でございます。
　「成果指標３　市の生涯学習施設が５年前よりも利用しやすくなったと考え

る市民の割合」については、「生涯学習関係団体アンケート」を各目標年度に実施するため、平成２９年度は未実施であり、達成状況を確認できません。
「成果指標４　生涯学習施設を年１回以上利用したことのある市民の割合」については、「市民１万人のまちづくりアンケート」の質問削除により、平成２９年度からＷＥＢアンケートにより調査を行うことにしました。平成２９年度末の割合は７３．１％となっております。

次に、６のうち、「南部青少年センター・みやこ図書館白旗分館の受水槽更新工事」については、緊急性が低いとの判断から、改修の実施が先送りとなり、進捗状況は「休止」となっています。

１０ページをお願いいたします。
大項目「２　多様な学習機会の確保」の「２－１　郷土への愛着を深める学習機会の提供」でございます。
「成果指標５　郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合」については、「市民１万人のまちづくりアンケート」の質問削除により、平成２９年度からＷＥＢアンケートにより調査を行うことにしました。平成２９年度末の割合は５５．７％となっております。国の特別史跡となった加曽利貝塚や千葉市の礎を築いた千葉氏などを筆頭に、ＰＲイベントや普及活動を積極的に行った結果、郷土の歴史や文化財に対する市民の興味・関心が高まったと考えられます。

１１ページをお願いいたします。
「２　文化財の保存・活用の推進」についてですが、「ゆかりの家・いなげ」の改修工事につきましては、緊急性が低いことから先送りとなっており、進捗状況は「休止」となっております。「旧検見川無線送信所」の修繕については、当該建物を含む区画整理地の活用方針が未定のため、外壁補修工事が先送りとなっており、進捗状況は「休止」となっております。

１３ページをお願いいたします。
「２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」でございます。
「成果指標６　公民館の講座の参加者の満足度」については、平成２９年度末は９８．７％となっております。平成３０年度末の中間目標値には達していないものの、平成２７年度末、２８年度末の現状値から上昇していることから、引き続き満足度の向上に努めてまいります。
「成果指標７　『科学都市ちば』の認知度」については、平成２９年度末は５６．７％で、平成３０年度の中間目標値を上回っていることから、達成状況

は「◎」となっております。各種イベントの開催による科学館事業の充実など、「科学都市ちば」の認知度の向上に努めて参ります。

「６　未来の科学者育成プログラムの充実」の「ジュニア講座の充実」については、事業は継続して実施しているものの、受講者数が減少しているため、進捗状況は「遅れ」となっております。

「８　放課後子ども教室の推進」については、放課後子ども教室の実施日数は平成２９年度末で１校当たり１９．８日となっており、平成３０年度の中間目標値、１校あたり３０日と比較して、進捗状況は「遅れ」となっております。

１６ページをお願いします。

「９　子ども読書活動の推進」のうち、上から２段目、「読書習慣のある児童生徒の割合（中学２年生）」については「遅れ」となっております。今後も子どもの読書活動の推進に努めて参ります。

「１１　家庭教育支援事業の実施」については、家庭教育の支援や子育ての不安や悩みを解消するため、「子育てママのおしゃべりタイム」を公民館で実施しました。当該事業の担い手である子育てサポーターや地域の子育て世代のニーズに応じ、実施回数や場所を調整して参ります。

２０ページをお願いいたします。

大項目「３　学びを生かしたコミュニティづくり」の「３－１　地域の担い手となる人材育成」でございます。

「成果指標８　市民のボランティア活動・地域活動への参加状況」については、平成２９年度末の割合は１３．５％で、平成３０年度の中間目標値に対する達成状況は「×」となっております。団体・グループ活動のリーダーやボランティアの育成、家庭教育支援事業の一部実施を引き続き行っておりますが、事業によっては参加者や登録者の伸び悩みが見えます。ボランティアの活動機会を増やすこと、実施するイベントの広報ＰＲに努め、地域における学習活動の活発化を図ります。

２１ページをお願いいたします。

「２　ボランティアの育成」について、ちば生涯学習ボランティアセンターの登録者数は平成２９年度末は１，６９７人と、平成２８年度末より６２人増加しておりますが、平成３０年度の中間目標値に対して「遅れ」となっております。引き続き、ボランティアを紹介するイベントの実施や、ボランティアコーディネート件数を増やすことで、ボランティアの活動機会を増やし、ボラン

ティアセンターへの新規登録者の獲得に努めて参ります。
　次に、「３　家庭教育支援事業の実施」については、平成２９年度末の家庭教育支援チーム数は、昨年度同様、２チームとなっております。

　２３ページをお願いいたします。
　「３－２　学習成果の活用機会の提供」でございます。
　「成果指標９　年２回以上学習成果を地域に還元する団体の割合」については、「生涯学習関係団体アンケート」を各目標年度に実施するため、平成２９年度は未実施であり、達成状況を確認できません。

　２７ページをお願いいたします。
　「３－３　市民の参加・協働による学習活動の推進」でございます。
　「成果指標１９　住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合」については、平成２９年度からＷＥＢアンケートにより調査を行っております。平成２９年度末の割合は２８．９％となっております。引き続き、地域が自主的に取り組む学習活動、地域で活動する団体相互の連携を支援し、市民の参加・共同による学習活動の推進を図ります。

　２８ページをお願いいたします。
　「１　多様な主体による学習活動の推進」については、平成２９年度の実施事業数は１０９事業と、平成２７年度の現状値からは上昇しておりますが、昨年度に比べ５事業減少し、平成３０年度の中間目標値に対しては「遅れ」となっております。今後もＮＰＯ法人や高等教育機関、社会教育関係団体等の多様な主体と連携した学習活動を推進していきます。

　説明は以上でございます。補足でございますが、こちらの進捗状況につきましては、「千葉市教育委員会事務点検・評価」の一部として掲載される予定です。

○（岩切会長）
　ご質問、ご意見等ありましたらよろしくお願いいたします。

○（廣﨑委員）
　「アンケート」の対象はどのような年代で、どこに発信し、回収率は何パーセントですか。

○（田島生涯学習振興課長補佐）
「ＷＥＢアンケート」につきましては、市のホームページ上で回答者を募り、ご回答いただくというものです。広く募ってお願いしている形ですので、回答率という概念はございません。回答数としては６０９、年代については４０代が一番多く、３２％ほどになっております。そこを中心に広がっており、３０代から５０代の層でみると、７割弱を占めております。６０代以上は３割弱の割合となっています。

○（小川委員）
２ページの「成果指標２　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」について、調査方法と設問内容を変更したというのは、具体的にどういうことですか。

○（山田生涯学習振興課長）
計画策定時はインターネットモニターアンケートを利用していましたが、こちらの制度がなくなった関係で、現在はＷＥＢアンケートを利用しています。
設問内容の変更内容については、ＷＥＢアンケートに変更した際に、間接的な聞き方から直接的な聞き方に変えています。具体的には、変更前は「生涯学習関連施設について、市はどのような点に力を入れるとよいと思いますか。」という質問に対し、「生涯学習に関する情報提供を拡充する」を選択しなかった割合を集計していました。変更後は「千葉市の生涯学習活動に関する情報は十分だと感じていますか。」という質問に対し、「はい」と回答した割合を集計しています。

○（潮見生涯学習部長）
アンケートについては、他でもアンケートの数値をとっていない、設問が変わったという表現が出てきております。「インターネットモニターアンケート」以外に「市民１万人のまちづくりアンケート」の数値を用いておりましたが、見直しによる質問内容の削除により、本来は同じ質問で継続的に数値をとっていくべきなのですが、制度の変更によって比較しづらくなっている部分がございます。

○（庄司委員）
平成２７度年末の現状値をもとに中間目標値や最終目標値を設定していると思いますが、数字が変更したことにより、それらを見直すことはありますか。

○（潮見生涯学習部長）
　今年度の中間見直しの中で検討する予定です。

○（武委員）
　２０ページの「３　学びを生かしたコミュニティづくり」について、地域の中から人材が出てこないという、地域の問題があります。「成果指標８　市民ボランティア活動・地域活動への参加状況」の数字が低いので、やり方を含めて、根本的に考える必要があると思います。高齢化と同時に、中間層の若い人たちが表に出てこず、地域自体が崩壊してしまうという心配があります。そういう人がどうして出てこないか、数値を高める方策はないか。

○（潮見生涯学習部長）
　資料２、１１４ページをご覧ください。生涯学習推進計画の到達点は、「学びを生かしたコミュニティづくり」であり「地域の担い手となる人材の育成」であります。教育基本法の目的でもございます。ただサークル活動をするだけでなく、成果を地域に還元することが重要で、公民館の活動がそれにふさわしいと思います。公民館の講座を、数を増やす、市の各所管とタイアップすることにより充実させていきます。

○（伊藤（節）委員）
　単発の学習、座学で終わっている学習が多いですが、それをフォローアップするワークショップなどの開催を検討していただきたいと思います。
　また、公民館の現場力を高めていく必要があると思います。公民館職員だけでなく、これから増えていくさまざまなノウハウや技術を持った退職者に、それらを生かせるように、地域コーディネーターとして活躍してもらうような体制を作るのはいかがでしょうか。

○（潮見生涯学習部長）
　市民自治の部門において、中学校区単位で、福祉等の人材を地域で集め、地域運営をしてもらうという取組を行っています。その活動拠点を公民館に置いている例が２つございます。地域を地域で支えるという取組は行いつつあります。

○（伊藤（節）委員）
　既存の自治会に頼りすぎではないかと思います。自治会も組織率の低下や構成員の高齢化が進んでいるので、ＮＰＯや個人を吸い上げるようなことをしな

いと、新しいことが進まないと思います。

○（長澤委員）
　２ページの「成果指標１　生涯学習に関心のある市民の割合」と「成果指標２　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」、２０ページの「成果指標８　市民のボランティア活動・地域活動への参加状況」の達成状況が「×」であることが気になります。
　「成果指標１」の達成状況が「×」というのは、頑張っていらっしゃる市民の気持ちとずれが出ているのではないかという気がします。
　調査方法が変わったのであれば、変更前の数値と比較することは無理なことだと思うので、新しいＷＥＢアンケートに即した、今の調査方法に即した見直しや目標数値の設定が必要だと思います。
　また、ＷＥＢアンケートについて、パソコンを使える世代に偏った回答にならないか、ＷＥＢアンケートをやってくださる方だけの数値だけで正確な数字が算出できるのかと疑問を持ちました。
　「成果指標８」については、どのように実際に参加というものを捉えていくのか、公民館が学んでいること自体が地域参加であり社会参加であると捉えることもできると思うので、新しい調査に対応した指標の設定の仕方を考えられた方がよいと思いました。

○（岩切会長）
　市長部局等では同じような問題は発生していないのですか。

○（山田生涯学習部長）
　他部局においても、各局で作成している計画の進捗状況を測る数値として「市民１万人のまちづくりアンケート」を利用していまして、同じようなことは生じていると聞いています。
　ＷＥＢアンケートについては、他局の情報を収集しながら検討していきたいと思います。数値目標については、中間見直しを行うので、考えていきたいと思います。

○（伊藤（節）委員）
　１０ページの「成果指標５　郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合」について、地域にある川や街並みといった、日常的に接している身近なものから郷土愛は育まれることが多いのではないかと思いますので、こういった項目を入れてもよいのではないかと思います。千葉氏や加曽利貝塚といった有名な

ものだけというのは違うかなと。

○（菊池副会長）
　公民館の今年度の主催講座を調べてみると、公民館によっては地域の歴史を取り上げており、件数も増えていると思いました。そういった取組を積極的に評価していくことで、地域にある公民館のよさや住民の学びが深まると思います。
　評価をしないと、人気のある千葉氏等の講座に人が集まるかと思いますので、芽が出てきていることを積極的に評価していきたいと思います。

○（庄司委員）
　指標を見ていると、ＷＥＢアンケートを用いたものが多いですけれど、公民館において年間どのくらいのイベントをやったであるとか、その内容はどんなものであったかというものは評価の対象にならないのでしょうか。

○（田島生涯学習振興課長補佐）
　公民館でどのくらいの講座をやっているかということについては、アウトプットであり、その部分に関してはアクションプランの進捗の中で評価すべきと考えております。
　成果指標については、市民生活もしくは市民自身がどう変わったかという、いわゆるアウトカムの部分を書いていると考えております。
講座の数や何をやったかということについてはアクションプランの中で捉える形だと考えております。
　１１ページの「３　郷土の理解を深める講座・事業の充実」については、事業をいくつやったかという数字を用いています。同じような形で、公民館事業についても掲載しています。

○（岩切会長）
　公民館の事業もアクションプランの中で評価しておりますか。

○（山田生涯学習振興課長）
　１５ページの「１　現代的課題学習事業の実施」、「２　文化・芸術学習事業の実施」等については、具体的な講座数といった目標になっておりませんが、公民館事業を取り上げています。

○（田島生涯学習振興課長補佐）
　２８ページの「１　多様な主体による学習活動の推進」については、生涯学習センターや公民館の講座数を取り上げています。

○（小川委員）
　ＷＥＢアンケートでは６０代の回答割合が３割とのことですが、いきいきプラザの各種講座は満員です。いきいきプラザで行われている高齢者向けの各種講座は評価対象外ですか。高齢者の方は公民館でも活発に活動しているが、そういったものが数値に出ていないと感じます。

○（河野委員）
　今後の取組方針をみると、「引き続き行う」、「継続して行う」、「充実をはかる」といったように、共通した文言で書かれているものが多いと思います。もっと具体的に記載した方が次の計画づくりをする上で見やすいかと思います。

○（渡邉委員）
　成果指標は上位の計画に応じての全体の中で抜粋したもの、アクションプランは各課が持っている事業をそれぞれ見ていくものという状況から、成果指標の達成状況とアクションプランの進捗状況に乖離が生じていると感じました。
　１６ページの「９　子ども読書活動の推進」については、かなり精度が高い数値になっていると感じます。中学生に遅れが出ているところが気になるところですが、中学校の場合、学力を重点的に考えるようになり、読書時間を学習時間にシフトしている現状が、結果に影響していると感じます。
　また、公民館の管理者が変わったことから、事業に力が入り、意気込みが高まっていることを感じました。公民館が生涯学習の地域の一つの拠点となっていると思いますので、今後の動向を注視していきたいです。

○（菊池副会長）
　７ページの「３　子どもの居場所の確保」について、子どもの居場所づくりとして、市のいろいろなところで事業が行われていると思います。いろいろな関わりの中で子どもの居場所を確保しようとしておりますが、公民館はどのように子どもの居場所に取り組んでいるか、知りたいと思います。たとえば、こども企画課が行っているこどもカフェで場所がなかなか確保できないときに、公民館はそれに関わることはできるのか、話し合いは十分に行われているか。
　１５ページの「８　放課後子ども教室の推進」について、子どもルームとの一体化が進められておりますが、そもそも放課後子ども教室は「安心で安全な

地域の居場所」、「地域の人たちとのかかわりの中で」という方針があったと思います。「学ぶきっかけとなるプログラム」が大きく取り上げることで、「安心で安全な地域の居場所」という考え方がきちんと担保されていくのだろうか心配があり、方針から少しずつスライドしていないのか伺いたいと思います。

また、公民館というのは地域の学びの場、居場所のキーワードだと思っています。資料２の１３０ページに「公民館の管理運営」の中に受益者負担という言葉がありますが、どういった方針を持っているのか聞きたいです。

○（山田生涯学習振興課長）

子どもの居場所について、公民館の取組としては、夏休みの期間中または公民館によっては通年空いている会議室を自習室として開放を行っています。図書室がある公民館については、子ども向けの本も揃えているため、子どもの居場所になると思います。こどもカフェについては、利用申請があれば、公民館利用は可能であると考えています。

受益者負担については、現在は公民館の有料化の予定はございません。有料化については、他施設や他都市の状況、様々な視点から総合的に検討すべき課題であると認識しています。

○（君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長）

今年度末までに、本市において放課後子どもプランを策定する予定です。その中で、放課後の子どもの居場所として、放課後子ども教室や子どもルームだけでなく、公民館やこどもカフェ等、そういったところで子どもたちをどう見守っていくか、どう安心安全ない場所を提供していくのかお示ししていく予定です。

放課後子ども教室の方針については、地域で子どもを育んでいくことが基本であることは変わりありません。しかし、地域で十分に運営できないところがあるため、放課後子ども教室と子どもルームを一体的に業者に運営してもらおうという一体型の試みを、昨年度から稲浜小学校において行っております。

一体型の運営については、保護者の方からは学習塾的なものを期待する声が多いため、体験学習とのバランスを取りながら運営していく必要があると思います。

○（廣﨑委員）

生涯学習ボランティアセンターの登録者が、いろいろな放課後子ども教室や子どもルームに回っていますが、ボランティアが活躍する場が多くなっています。教育振興財団は、各施設にボランティアセンターの活用を呼び掛けている

ことをご案内します。

○（渡邉委員）
　２８ページの「４　学校支援地域本部やコミュニティスクール等の推進」について、学校支援地域本部は市内に広がってきているので、こういうところを活用して放課後子ども教室の充実等を図っているケースがあります。

○（金田委員）
　公民館の指定管理者制度導入により、計画の指標・進捗に影響や効果は出ているか関心があります。指定管理者制度導入関係の項目を設けて、課題として計画に入れるのはどうでしょうか。

○（潮見生涯学習部長）
　計画等に指定管理者関係のことを記載できるかは検討が必要ですが、指定管理者制度の導入により公民館と学校、生涯学習センターの連携が図れるようになってきています。

○（遠藤委員）
　１３ページの「２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」は、千葉市の生涯学習の推進にとって大事なことであると思っております。
　公民館においてはいろいろ魅力的な講座が工夫されて行われており、講座に参加した方の満足度は非常に高いので、大きな課題となるのがどうやって広報をしていくかということだと思います。
　「成果指標７　科学都市ちばの認知度」についても、課題は広報であると思います。満足度はとても高いので、広報の工夫が最終目標に向かうにあたって大事な部分になるかと思います。

○（伊藤（美）委員）
　２０ページの「成果指標８　市民のボランティア活動・地域活動への参加状況」の数値が低いと思います。活躍していただきたい世代が仕事や子育て、介護等でなかなか参加できない状況があるが、継続してやっていくことが重要だと思います。

○（岩切会長）
　ご意見ありがとうございました。
　全体を見て、地域と学校とボランティア等、つなぎ役が一番必要になってい

ると思います。それぞれの力は充実してきているので、それぞれをつなぐところを強化するところがポイントだと思います。つなぎ役をボランティアに任せるのではなく、行政でつなぎ役の育成に力をいれていけば、それぞれの力が生きていくと思います。

○（岩切会長）
　それでは他にございますか。
　（特に意見等無し）。
　それでは以上で議事を終了したいと思います。進行を事務局にお返しいたします。

　議事後、事務局から次回会議の日程、議題として第５次生涯学習推進計画の中間見直しを予定していることの確認、それに関する委員の了承を行った。

問い合せ先　千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課
電　　話　０４３－２４５－５９５４
ファックス　０４３－２４５－５９９２
電子メール　shogaigakushu.EDL@city.chiba.lg.jp